660　中央大学留学生柴田甲四郎弁護士近状

〔『法学新報』第31巻8（356）号　大正10年8月1日〕

○柴田弁護士近状　中央大学留学生として独逸に渡航したる柴田甲四郎氏より花井博士に寄せたる近信左の如し

謹啓向暑の砌先生愈（ママ）御清祥大賀此事に御座候却説不肖年頭離国後去る三月三日伯林に無事到著予定の通伯林大学の入学も相叶ひ勉強罷在候間乍慮外御放心被下度候

戦敗国たる独逸か物質上精神上大打撃を受け居るは申すまても無之殊に賠償金の問題も決定したる今日戦後の疲弊に加ふるに大なる負担を以てするか故に同国の前途は洵に困難なるもの有之果して従来の如き独逸聯邦か維持せらるるやも問題に候へ共本来ゲルマン民族は堅忍持久の性格を備へ且是れ迄幾多の試錬

Berlin W.30
Habsburgerstr. 7, 1 e.

を経来りたるを以て此の如き国家の危機に際しても悠悠として迫らす安んして其業に就き努めて其途を講するの風あるは流石に大国民的襟度を馴致せるものと謂はさるへからす候

戦争の影響は孰れの国にも見るか如く当地に於ても中産階級殊に官吏其他の労銀生活者に甚しく細民に今以て黒パンを食するの状態に有之候然れとも欧洲は概して生活程度高きか為めか我国の生活程度より想像したるか如き生活難と余程懸隔致居蒼顔襤褸街頭を往来するものを見さるのみならす劇場割烹店よりは常に音楽の洋洋たるを漏れ聞き候

日本新聞は往往独逸の擾乱を伝居候へ共過般虚無党の小騒動を見たる外極めて平穏にして警察秩序は完全に維持せられ居候

物質界の窮乏と幾多有為の材を失ひたるは学界に対しても亦大なる打撃たるは見易きの理に候へ共学問の熱は依然として旺なる様に有之現に大学専門学校の入学志望過剰にして新大学高等学校設立の企図有之候法学界の状況に就ては未た詳知するの遑無之候追て御報知申上度日本人の留学生も漸次増加の傾向有之法学研究者も十有余名を算し申し条不肖は当地に於て二三年十分勉強致度候

実は早速御報知申上へくの所伯林大学の入学期も接迫(ママ)の折柄鋭意準備の必要有之終に延引候段不悪御諒恕願上候尚島田君はハイデルベルヒに於て修学為され居候て未だ面会の機を得す候

莅終遙に先生の御健勝奉祈上候　謹言頓首

千九百二十一年五月二十八日　於伯林　柴田甲四郎

K.SHIBATA